

数量関係②

第2学年


式の読み取り(かけ算)

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られませんか？～

被乗数と乗数の関係が正しく理解できない。


問題：おかしのはこが4つあります。1つのはこには、おかしが5こずつはっています。
みんなで何こになりますか。



○○○○ ○○○○ ○○○○
○○○○ ○○○○
だから20個です。

場面を正しく図で表すことができない。

○○○○○ ○○○○○
○○○○○ ○○○○○ だから
 $4 \times 5 = 20$ で20個。



図とかけ算の式を正しく結び付けられない。

単元の概要

目標

かけ算の意味を理解し、「基準量のいくつ分」「基準量の何倍」と考えることができる。

内容

※太字は次ページに詳細を掲載

- かけ算の意味や式のとよみ方、かき方
- たし算を活用したかけ算の答えの求め方
- **倍の意味**
- かけ算の九九

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

学習内容(単元名)		つまずきの実態
第6学年	割合を使って	全体を1として、割合を用いて考えることができない。
第5学年	割合	問題場面の数量(比べる量、もとにする量、割合)の関係を理解すること、小数を%で表すことが難しい。
第4学年	小数倍	「○は□の何倍ですか」という問いに対して、 $\bigcirc < \square$ の時に、 $\bigcirc \div \square$ と立式することに抵抗がある。何倍かするのになんか答えがかけられる数よりも小さくなる場合があることが理解できない。
第3学年	倍とわり算	何倍かを求めるときに、わり算を使うことが理解できない。
第2学年	式の読み取り(かけ算)	被乗数と乗数の関係が正しく理解できない。
第1学年	ひき算(求差)の意味	ちがいを求めるときに基準となる数が理解できない。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ①

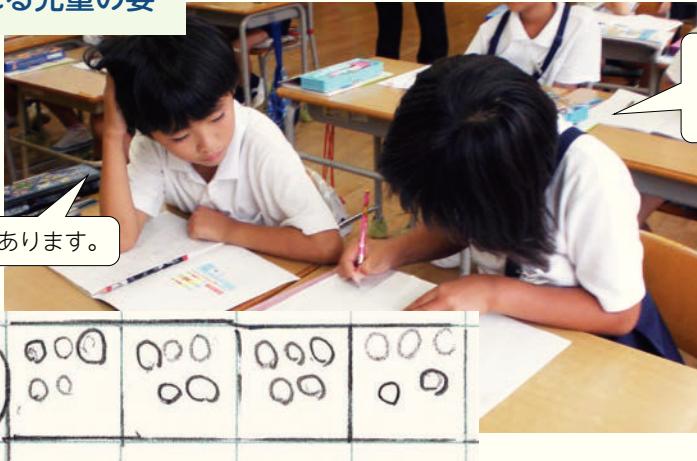
問題場面を自分の言葉で説明し直す活動

活動のねらい▶ • かけられる数とかける数の関係をイメージしながら図に表し、○の△倍かを考えて立式できるようにする。

ここがポイント

「1つのはここにおかしが○こあります。それが△つ分（倍）だから…」と言いながら図にかかせることで、かけられる数とかける数の関係をイメージしやすくさせる。

期待される児童の姿



5こが4つ分あります。

1箱に5つずつ入っています。それが4箱あります。だから、 5×4 になります。

問題文からだけでなく、その様子を図示させることによって、「問題文がかける数とかけられる数が入れ替わっているよ」「1箱に5つずつで、それが4箱あるから…」など問題場面のイメージをもつことができる。

つまずき解消に向けた指導の工夫 ②

★対話的な学びにつながる実践

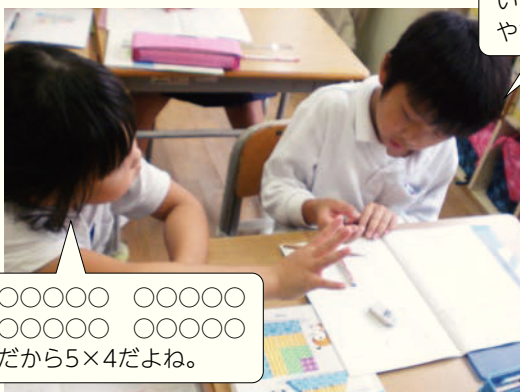
個人思考でかいた図や式を用いて、自分がどのように考えたのかをペアで伝え合ったり全体場で交流したりする活動

活動のねらい▶ • 図と式を関連させながらかけ算の意味について理解を深める。

ここがポイント

個人思考やペアで伝え合い導き出した考えを、全体場で交流させる。その際、個人（ペア）で考えた図や式を用いて説明させることにより、問題場面に合う図や式の理解を深めさせる。

期待される児童の姿



○○○○○ ○○○○○
○○○○○ ○○○○○
だから 5×4 だよ。

1箱に○個ずつってのがわかりやすいね。



1つ分が5個で、それが4箱あるよ。5個の4倍だから 5×4 だよ。

ペアでの交流や全員で話し合うことで、「○の△倍」ということをより意識し、図と式を正しく結び付けることができる。